



校長挨拶

開校50年目のパリ日本人学校へようこそ

パリ日本人学校
校長 伊藤 博

本校は、欧州で3番目に誕生した歴史と伝統のある日本人学校です。1973年にパリ市内のトロカデロにある旧日本国大使館に開校しました。その後、児童生徒数の増加に伴い、1983年には中学部がシュレーヌへ移転。さらに、1990年にパリから20kmほど西のサンカンタンに移転して現在に至っています。本年度は、開校から50年という節目の年を迎えました。

本校は、日本の学習指導要領に基づいた教育課程の実施を文部科学省に申請して認可を受けている、フランス国内では唯一の日本人学校です。数年間のフランス生活の後、日本に帰国する子供たちや、ここフランスで長く暮らす子供たちなど、様々な立場にある子供たちに対し、日本国内と同等以上の教育を行うことを目標とし、「世界で活躍するグローバル人材の育成」を指導の重点として取り組んでいます。フランスで生活していることの意義や価値を踏まえ、日仏の文化・教育交流を図り、相互理解にも重点を置いた教育活動を推進しています。小学部1年生からフランス語、3年生(選択制により2年生からも可)からは英会話の授業も導入し、中学部になると、特に英語の授業時数が増えるなど、外国語の指導に重点を置いています。また、現地の複数の学校との定期的な交流も毎年行われています。さらに、安全に十分注意しながら、現地理解を促進するために地元サンカンタン地区や、パリ市内、そして広くフランス国内における校外活動を積極的に行っています。

今年度は、小学部高学年が近隣の体験施設で、中学部は南仏方面で体験学習・宿泊学習を実施します。また、小学部はベルサイユ庭園への遠足やオランジェリー美術館、ポンピドゥー近代美術館、オルセー美術館、ロダン美術館等への見学を、中学部も多様な施設への社会見学を予定しています。校内では、6月の「運動会」と10月の「パリ日本人学校発表会」「パリ日本人学校まつり」が三大大行事として盛大に実施されてきましたが、ここ数年のコロナ禍で活動が制限されてきました。今年度も感染症対策を十分に行いつつ、可能な限り子供たちに多くの体験をさせたいと思っております。

本校からは毎年多くの子供たちが巣立ちますが、卒業を待たずに転出したり途中から編入したりする子も多くいます。そんな時、いつでも温かく見送ったり受け入れたりすることができます。また、本校には校則がありません。子供たちが自分で判断して、本校の児童生徒としてふさわしい行動をします。教室には子供たちの穏やかな声と思いやりがある優しい空気が満ちあふれています。一人一人が夢を持ち、仲間とともに学び合いながら成長する本校の校訓は、「明るく・仲よく・たくましく」です。【「あ・な・た」を大切にする「心のふるさと“パリ日”】」を合言葉に、本校を通じて結ばれた絆をいつまでも大切にしていきたいと思っております。

令和4年度は、小学部128名、中学部25名の計153名でスタートしました。開校50周年という記念の年でもあり、間もなくパリオリンピック・パラリンピックも開催されるという機会を生かし、全てのスタッフが「ワンチーム“パリ日”」「すべてはパリ日の子どもたち(保護者)のために」の言葉を胸に、一丸となって精一杯取り組んでまいります。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。